



## 愛川ふれあいの村2月の風景

# 平成28年2月 自然のたより

中旬に雪が降り、澄んだ空の青色が雪の白色に映えていました。張り詰めた空気から寒さが伝わりました。そのせいか、鳥も雪の降った日には姿を見せることは少なく、鳴き声すら聞こえませんでした。暖かい日にはメジロも出てきて、楽しそうに木の枝の上で追いかっこをしている姿が見られました。



メジロ



カワツザクラ



エンジュの種子を食べるヒヨドリ



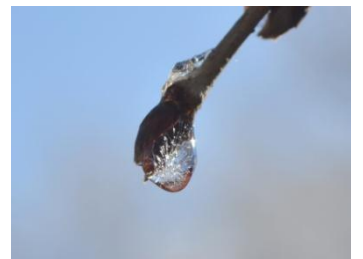
アオゲラ



木に止まるトラツグミ



ツバキの花



蕾にできた氷



水浴びをするカワラヒワ



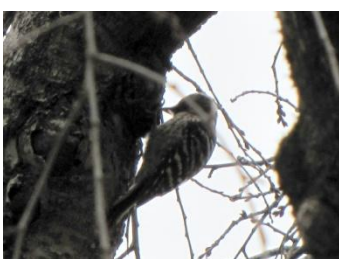
咲き始めたミツマタ



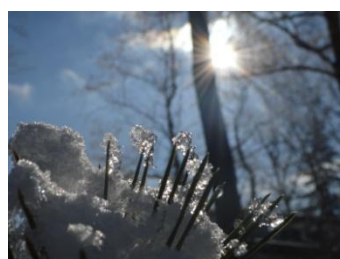
リスの食痕



ジョウビタキ(オス)



ドラミグしているコゲラ



陽に照らされた氷



イカルとシメ



スイセン



## ◆木+春=椿◆

### ～漢字から四季を感じてみよう～

暦上では春も半ばに差し掛かり、自然界からたくさん『春のたより』が届いています。ミツマタが咲き始めたり、メジロが姿を現わしたり、今年は昨年よりも半月程早くカワツザクラが咲き始めています。

さて、桜が咲くと春真盛りなイメージがあると思いますが、春を告げる樹木は何なのか分かりますか。

「椿」という漢字は「木」と「春」からできており、椿が咲き始めることで春の訪れを知ることができます。椿だけでなく、梅も早い時期から咲き始めるので、春の訪れを知るには1つの手掛かりとなっています。

では、夏を告げる樹木はというと、椿と考え方は同じで、「木」に「夏」と書き、「榎(えのき)」という樹木に、秋は「木」に「秋」と書き「楸(ひさぎ)」、冬は「木」と「冬」で、「柗(ひいらぎ)」となります。

日本人は昔から、自然の移ろいや四季の特徴を知り、生活に活かしてきました。例えば、梅雨の時季を利用して、梅干しを漬けたり、寒い時季には味噌を仕込んだりと、人が自然の流れに合わせてきました。

最近猛暑であったり、暖冬であったりと、四季の特徴も感じられないような気候になってきています。



しかし、各季節の特徴が完全になくなったわけではありません。

人は無意識に五感を使って季節を感じていますが、漢字からも季節を感じることができます。

日常生活で少し漢字に意識を向けてみてください。新しい発見があるかもしれませんよ。

## ▼植物の葉が水をはじく理由▼

雨の日や雨上がりに植物の葉を見ると、葉の上に水の玉があったり、葉が濡れていなかったり、という現象が起きていることを知っていますか。

この現象は、葉の表面に『クチン』という物質と『ワックス』が層になっているため、水をはじき、玉になっていたりと、葉が濡れなかったりということが起きているのです。

他にも、植物の水分が乾燥によって蒸散されないようにするためにも役立っています。

花に意識を向けることが多いですが、雨の日や雨上がりには葉を見て水をはじく様子を観察してみたいかがでしょうか。



## ★旬のお知らせ：3月★

土の上にひょこっと顔を出すフキノトウ。春一番に雪の下から出てくることから、『勢いのある縁起の良いもの』とされています。

さて、フキノトウを始めとする山菜はこれから旬です。この他に、タラノメやコゴミ、ワラビ、アケビ、コシアブラ、ヨモギなど、数え切れないほどの山菜があります。

山菜を採りには行かなくとも、たくさんの種類を味わってみてください。山菜は苦味が特徴的ですが、それも一つの味。

春以外の季節に、春の食材が手に入れやすくなり、季節ものの有難さやシア感が薄れてきています。旬のものをその季節に味わい、季節を味覚で楽しんでみましょう。



## ◎3月の

### 注目ポイント◎

春と言えば、卒業式や入学式、お花見などワクワクすることたくさんあります。しかし、それだけでなく、『花粉症』という厄介なものもやってきます。きつと花粉に悩まされている人も多いのではないのでしょうか。花粉症の代表と言えは『スギ』で、日本の山に多く生えているのも『スギ』です。なぜ、日本の山にスギが多くあるのかと言うと、日本は戦後に家を建てるため、成長が早いスギをたくさん植える必要がありました。しかし、技術が発達したことや外国との貿易も盛んになると、木造の家より鉄筋コンクリートで作られた家の方が長持ちであることや、国内産の木材よりも外国産の木材の方が安いということ、戦後に植えられたスギはだんだんと放置されてきました。その結果、太陽の光を充分に受けられなかったり、根を広く張ることができなかつたりして、生命の危機を感じ、子孫を残すためにたくさん花粉を飛ばしているのです。

『木を切ること』自然破壊』ではありません。木を植えて、しっかりと管理していくことが、森や林、山を守ることに繋がります。そうすると花粉が飛び量も少なくなるでしょう。木との付き合い方も考えながら、生活をしていきましょう。



発行者：神奈川県立愛川ふれあいの村

TEL：046-281-1611 HP：<http://fureai-aikawa.com/>

写真：吉田文雄・天野智裕・大瀧裕基子

文章：大瀧裕基子

編集：大瀧裕基子・吉田文雄



愛川ふれあいの村で、検索★